



参加者と職員によるグループディスカッション。「地域包括ケア病棟の内容がわかった」「利用を勧めたい方が浮かんできた」という意見もいただきました。

「地域包括ケア病棟の内容が分かった」 「代々木病院の地域包括ケア病棟を ご利用いただくための交流会」を開催

急性期医療と亜急性期医療を充実させる目的で、2014年度診療報酬改定で、「地域包括ケア病棟」が新たに設けられました。地域包括ケア病棟では、一般病棟で急性期の治療を終えた患者さんの受け入れだけではなく、在宅・生活復帰支援や在宅療養中の患者さんの受け入れもおこないます。

当院では2017年2月に「地域包括ケア病棟」(3階病棟)を開設し6年が経過しました。新型コロナウイルス感染症予防のため、この3年間は近隣の医療機関の方々と

直接コミュニケーションをとる機会が減っていました。そこで、この度11月29日に「代々木病院の地域包括ケア病棟をご利用いただくための交流会」を開催しました。渋谷区内の居宅介護支援事業所と地域包括支援センターから13名の方にご参加いただきました。

柳田月美

「患者サポートセンター
医療ソーシャルワーカー」



代々木歯科コーナー

連載



山内真人
歯科医師

親切でより良い歯科医療を追求

あけましておめでとうございます。皆様には日頃より当院をご支援いただきありがとうございます。代々木歯科は1949年に代々木診療所の歯科として開設し、皆様に支えられて今年で75年を迎えます。

この75年の歴史は、厳しい社会情勢と対峙し、民医連綱領が掲げる無差別平等の医療を発展させてきた歴史でもあります。75年前は虫歯が溢れ、歯科を受診する為には早朝から並んで順番を待たなければならぬ時代であったと聞いています。代々木歯科の開設にあたり、当時の職員は歯科医療から最も疎外されている人々や、今一番困っている人々を対象にしたい、特に子供たちの予防を重視したいと思いを共通認識としてきました。そこで、子供の歯を守る患者会を作り、講話や歯磨き指導を行うこと、寝たきりの方や入院中の病室に歯科往診に向くこと、昼間に受診が難しい働く人には夜間の診療を行うことなど、開設当時

1975年当時の代々木歯科



出典：代々木歯科ホームページ

から様々な形で実践してきました。予防重視・歯科往診・夜の診療は、今の日本の歯科医療では当たり前になりましたが、私たちは75年前からこのような診療に真剣に取り組む、地域住民が健康を守るお手伝いをしてきました。時代は変化をしていますが、これからも医療・医学の原点に基づき、患者さんご要望にこたえられる技術を持ち、親切で良い歯科医療を追求していきますように、職員一同たゆまぬ努力を続けていく決意であります。今後とも皆様のご支援、ご協力をお願いいたします。

「国保料軽減を求める請願」 区議会議員へ要請



「国保料の軽減を」共産党区議団へ請願の要請を行う嘉瀬社保協事務局長(代々木病院職員)

代々木病院も加盟している渋谷区社会福祉推進協議会では、「2024年度の国保料について据え置くことを求める」請願を12月渋谷区議会に提出するため、11月27日に渋谷区議会の6つの会派と3人の無所属議員に請願要請をしました。渋谷区内では保険料が高額で、滞納が2割にも上り、加入者から重い負担に対して悲鳴が上がっています。各会派の議員も国保料が「高い」という認識はあるようでした。都が示した2024年度国保料は、自治体からの財政繰入がないと約6パーセントの値上げが見込まれています。国保料の軽減が必要です。

サプリメントに頼らない生活



薬剤師 藤竿伊知郎 (外苑企画商事)

(102) 風邪やインフルエンザの発熱に



秋から異例の流行が続くインフルエンザ。これから広範な感染が予想され、発熱外来にかかりにくくなったり、解熱剤が不足することが心配です。2021年、ワクチンの副反応を抑えるため、

ウィルスに感染すると、免疫反応により、病原体を攻撃する白血球を集めようと、血流を増やし体温を上昇させます。炎症と発熱は不快ですが、体を守るための自然な防御反応です。病勢が落ち着く前に解熱剤を服用すると、免疫反応を高め、室温の加湿も心がけてください。

用すると、免疫反応を高めるための化学伝達物質の生成を抑え、防御反応を弱めてしまいます。発熱が続くと不安になります。37.5度・3日以内の発熱なら、普段健康な人にとって問題ありません。心臓や肺に病気を抱えている人でなければ、あわてて受診しなくて結構です。

発熱に有効なサプリメントはありませんが、シヨウガ・ネギなどを温める食材を、野菜スープでとることをおすすめします。喉を保護するため、室内の加湿も心がけてください。